
株式会社エスビー商会 2023年（1月～12月）環境活動レポート

作成日 令和6年6月30日

次期作成予定 令和7年4月（予定）

◆◆ 環境方針 ◆◆

株式会社エスビー商会は、環境との共生・調和を目指し、環境負荷の軽減を図るために、以下の環境方針を定め、事業活動を通じてその実現に取り組みます。

1 事業を通じた地球環境保護

全ての事業活動において、地球環境保護に寄与できるようにつとめます。

2 資源・エネルギーの効率的利用

電気、ガス、車両燃料等の消費、廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を認識し、省資源、省エネルギー、リサイクルに努めます。

特に、リサイクル事業部で自動車部品の再利用比率を高め環境負荷軽減を図る。

3 継続的環境改善の実施

環境保全に関する目的・目標を設定し、取り組み結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組みます。

4 環境開発活動と地域社会貢献活動の推進

環境活動レポートを公表するなど、社内外に対して環境保護に関する情報の提供を行うと共に、事業活動を通じて、取引先に対しても環境負荷の少ない商品の取り扱い啓蒙、リサイクル可能商品の拡大を図る活動を行います。また、啓発、教育活動を推進すると共に、地域社会の一員として地域・社会貢献活動の推進に努めます。

5 環境関連法規の遵守

最新環境関連法規の情報収集に努め、業務遂行に当たっては関連法規を遵守する

平成16年1月26日制定

平成20年2月 1日改訂

株式会社エスビー商会

代表取締役 佐藤 克敏

◆◆ 事業の概要 ◆◆

(1) 事業者名

株式会社エスビー商会
 代表取締役 佐藤克敏
 法人設立 昭和43年12月
 資本金 2700万円

(2) 所在地

本社・郡山営業所 福島県郡山市安積一丁目138
 郡山西営業所 郡山市富田町字西町下76
 本宮営業所 本宮市青田字ヌカリ27の2
 船引営業所 田村市船引町大字船引字城の内14の1
 県南営業所 西白河郡矢吹町中町42-2
 金屋テクニカルセンター 郡山市田村町金屋字孫右エ門平76
 イエローハット郡山南店 郡山市久留米五丁目197-2
 イエローハット白河店 白河市立石1-13

(3) 環境保全関係の担当者連絡先

担当者 岩澤雅弘
 連絡先 電話 024-945-5585 FAX 024-945-6696

(4) エコアクション21認証・登録事業所規模及び範囲

①本社・郡山営業所

社員数 44名＋業務委託者6名
 売上高 144,864万円（令和5年12月売上）
 社屋床面積 事務所 375m²
 倉庫 664m²
 作業所 83m²
 敷地面積 1,617m²

②金屋テクニカルセンター

所在地 郡山市田村町金屋字孫右エ門平76
 社員数 15名
 売上高 36,131万円（令和5年12月売上）

床面積	1, 6 2 4 m ²	
敷地面積	2, 9 7 0 m ²	
事業許可番号	産業廃棄物収集運搬業許可証	福島県 第 00702103593 号
		有効期限：令和 10 年 8 月 24 日
	引取業登録通知書	郡山市 第 20871000053 号
		有効期限：令和 9 年 10 月 16 日
許可車両	1 最大積載量 3t トラック	1 台
	2 最大積載量 2t トラック	1 台

③郡山西営業所

社員数	8 名＋業務委託者 2 名
売上高	3 9, 0 3 9 万円（令和 5 年 1 2 月売上）
社屋床面積	事務所・倉庫 1 5 5 m ²
敷地面積	2 1 7 m ²

④本宮営業所

社員数	7 名＋業務委託者 2 名
売上高	2 9, 3 0 7 万円（令和 5 年 1 2 月売上）
社屋床面積	事務所・倉庫 3 1 4 m ²
敷地面積	4 4 3 m ²
敷地面積	4 4 3 m ²

⑤船引営業所

社員数	7 名＋業務委託者 1 名
売上高	3 0, 0 9 1 万円（令和 5 年 1 2 月売上）
社屋床面積	事務所・倉庫 1 1 9 m ²
敷地面積	4 6 5 m ²

⑥県南営業所

社員数	5 名
売上高	1 9, 1 3 2 万円（令和 5 年 1 2 月売上）
社屋床面積	事務所・倉庫 2 1 7 m ²
敷地面積	6 4 1 m ²

⑦イエローハット郡山南店

社員数 10名
 売上高 17,658万円（令和5年12月上）
 社屋床面積 店舗・ピット・事務所・倉庫 594㎡
 敷地面積 1,650㎡

⑧イエローハット白河店

社員数 13名
 売上高 21,750万円（令和5年12月上）
 社屋床面積 店舗・ピット・事務所・倉庫 1,390㎡
 敷地面積 4,922㎡

(5) 事業内容

自動車部品の卸売、整備用機械工具の販売、中古・自動車リサイクル部品の販売
 自動車ガラス交換・修理、ADAS（先進運転支援システム）の校正・点検作業、
 自動車ガラスフィルム施工、ブレーキリビルト業務、自動車車体下部防錆作業
 自動車培力装置メンテナンス、カーオーディオ取付、
 自動車部品用品類の小売り、自動車整備事業

(6) 環境目標の担当部署及び責任者

環境管理責任者	取締役管理本部長	岩澤雅弘
環境管理アドバイザー	相談役	鈴木和己
管理本部	常務取締役	菅家昇子
郡山営業所	所長	橋本武彦
サービス課	部長	鈴木 貢
リサイクル事業部	課長	渡辺浩敦
オートガラス課	課長	鈴木琢実
郡山西営業所	所長	古川雄一
本宮営業所	所長	山田直樹
船引営業所	所長	安瀬浩平
県南営業所	所長	佐藤裕哉
イエローハット郡山南店	店長	諸橋 宏
イエローハット白河店	店長	人見 昭

◆◆ 2023年の環境目標とその実績 ◆◆

(1) 現状と活動状況

◆全体集計

エコアクション21 実績評価表		2023年環境活動目標達成状況								目標達成項目		
2023年実績		本社事業所	郡山西営業所	本宮営業所	船引営業所	黒南営業所	金屋 テクニカルセンター	YH郡山南	YH白河	2023年合計	2023年目標	2023年達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	162,248	32,925	33,450	33,696	19,368	36,529	29,379	72,054	419,649	434,046	103.43%
売上対排出	kg/百万	112.00	84.40	114.20	112.00	101.40	101.20	177.00	332.00			
廃棄物発生量	総量(トン/年)	18.30	2.22	0.55	1.27	0.14	45.84	38.90	58.40	165.61	131.31	79.29%
売上対発生	kg/百万	12.65	5.68	1.87	4.20	0.75	126.98	219.66	269.10			
水使用量	総量(m ³ /年)	390	106	46	53	43	121	126	171	1,056	1,084	102.62%
省燃費オイル販売数量	リットル	37,220	8,520	17,660	17,800	2,400		1,233	1,856			
販売比率	低燃費/販売総量	49.0%	41.0%	49.0%	41.0%	43.0%		72.3%	55.7%			
低燃費タイヤ販売本数	本							2,056	2,086			
販売比率	低燃費/販売総数							71.5%	71.6%			
化学物質	kg						11.51	4.67	6.24	22.42	21.15	94.34%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	10.10%	7.30%	8.90%	12.10%	14.60%	15,868					

* イエローハット部門のオイル販売数量はオイル交換件数で表示

* 金屋テクニカルセンターのリサイクル部品比率は部品点数で表示

2023年目標		本社事業所	郡山西営業所	本宮営業所	船引営業所	黒南営業所	金屋 テクニカルセンター	YH郡山南	YH白河	目標合計	2022年実績	2022年伸び率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	164,195	34,710	36,790	24,907	22,384	36,920	33,640	78,500	434,046	426,984	101.2%
売上対排出	kg/百万	130.00	95.65	119.10	81.84	117.00	110.01	171.00	360.00			
廃棄物発生量	総量(トン/年)	17.10	2.04	0.64	1.30	0.24	29.69	40.30	40.00	131.31	132.95	98.8%
売上対発生	kg/百万	13.56	5.60	2.08	4.30	1.36	83.90	219.80	195.00			
水使用量	総量(m ³ /年)	407	107	53	82	68	105	111.7	150	1,084	1,053	102.9%
省燃費オイル販売数量	リットル	36,377	9,855	11,853	17,813	7,895		1,305	1,970			
販売比率	低燃費/販売総量	42.9%	51.0%	33.6%	37.8%	48.0%		67.2%	60.0%			
低燃費タイヤ販売本数	本							2,156	2,500			
販売比率	低燃費/販売総数							80.4%	75.0%			
化学物質	kg						11.29	4.40	5.46	21.15	22.04	96.0%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	11.80%	9.70%	8.00%	11.90%	14.40%	17,757					

◆本社事業所・郡山営業所

当事業所の過去3年間の実績は以下の通りです。

本社事業所		2021年実績	2022年実績	2023年実績		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	167,529	159,301	164,195	162,248	101.2%
売上対排出	kg/百万	132.70	123.10	130.00	112.00	116.1%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	17.48	16.65	17.10	18.30	93.4%
売上対発生	kg/百万	13.85	12.86	13.56	12.65	107.2%
水使用量	総量(m ³ /年)	415	378	407	390	104.4%
省燃費オイル販売数量	L	35,660	40,040	36,377	37,220	102.3%
省燃費オイル販売比率	省燃費/通常	42%	51%	42.9%	49.0%	114.2%
化学物質	kg	0	0	0.00		#DIV/0!
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	11.6%	11.0%	11.8%	10.1%	85.6%

* 2021年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成30年)0.574 KDDIを使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.417 KDDI を使用

◇ 二酸化炭素排出量

①総排出量は目標 164,195kg に対して実績 162,248kg で達成率 101.2%となった。また、売上当たりの排出は目標に対し 116.1%で達成となった。

②エネルギー消費に於いて前年比 4,840kg の減少、輸送関連に於いても前年比 7,786kg の増加となっている。エネルギー消費減少の要因は、電気事業者別排出係数を令和 3 年の排出係数に変更した為である。

但し、輸送関連の燃料に於いてはガソリンで 1,586L の大幅増加、軽油についても車輛運搬業務の増加によって 1,591L の増加にはなっている。

引き続き全社的に配送ルート及び配送回数を見直しを図っている。

◇ 一般廃棄物

①紙類の排出が多い現状から、コピー用紙その他の裏面活用徹底及び再利用比率の向上を目指した。

②プリンター及びコピー機使用は両面印刷コピーの徹底による用紙の削減に取り組んだ。

③オンライン受注及びLINEを活用して、ペーパーレス化をはかる

④シュレッターダストを単純焼却から再生利用の継続。

◇ 産業廃棄物

①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

①女子トイレにおける擬音発生装置活用継続

②洗車時の節水運動を推進

③節水コマの採用により排水量の削減を図った。

◇ リサイクル商品売上高比率

2023 年目標の 11.8%に対して 10.1% (全売上 1,448,640 千円, リサイクル商品 145,863 千円)と比率では僅かながら未達だったが、点数は 5,228 点から 5,580 点と金額・点数ともに増加した。

◇ グリーン購入

2023 年におけるグリーン購入はOA機器、家電製品を中心に実施、事務用品等については表示のあるものを優先購入。

◇ 省燃費オイル販売拡大

2023 年における省燃費オイル販売数量は目標 36,377 リットルに対して、実績 37,220 リットルで目標を超えたが前年を下回ってしまった。

引き続き低燃費オイル販売を積極的に案内・販売を図っていく。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◆金屋テクニカルセンター

金屋テクニカルセンター		2021年実績	2022年実績	2023年実績		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	39,711	33,383	42,328	36,529	115.9%
売上対排出	kg/百万	112.30	91.50	121.00	101.20	119.6%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	30.30	27.53	14.00	45.84	30.5%
売上対発生	kg/百万	85.61	75.42	51	126.98	40.2%
水使用量	総量(m ³ /年)	107	98	136	121	112.4%
化学物質	kg	11.52	11.52	50.00	11.51	434.4%
リサイクル販売点数	個	17,407	16,598	17,865	15,868	88.8%

* 2021 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成 30 年)0.523 須賀川瓦斯 を使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.425 須賀川瓦斯 を使用

◇二酸化炭素排出量

①金屋テクニカルセンターの実績は目標に対して約 5,799kg 減少、達成率 115.9%。になった。

また、売上当たりの排出も目標に対し 119.6%で達成となった。

具体的には、エネルギー消費減少の要因は、電気事業者別排出係数を令和 3 年の排出係数に変更した為である。使用量としては、新規業務の自動車車体下部防錆業務が軌道に乗り 123kwh の増加である。

輸送関連に於いては、燃料使用量がガソリン 525L の増加・軽油 286L の減少となった。

②今年度も夏場の事務所内温度抑制の一環として、日よけシェードを設置した。

◇一般廃棄物

①分別排出を行い、再利用、再生利用の比率向上に努めております。(特に段ボール)

②事務所で使用されるコピー用紙は両面活用した上で全てシュレッダーにかけ、リサイクルルパーツ梱包時のクッション材として活用した。

◇産業廃棄物

オートガラス課移動に伴い廃ガラス発生により増加した。

◇水使用量

金屋テクニカルセンターの目標に対して 15 m³の減少だったが、前年に対しては 23 m³の大幅増加となった。引き続き一層の節水活動の徹底を図る。

◇グリーン購入

リサイクル事業部において電気製品、OA機器の購入はなかった。

◇化学物質

プライマー(化学物質)の使用実績は一定量に抑制されている。

◇リサイクル部品販売点数

販売点数目標に対して 1,997 点の未達、前年に対しても 730 点の減少、各営業所と連携を密にして販売強化を図っていく。

◆郡山西営業所 2023 年環境負荷実績

郡山西営業所		2021年	2022年	2023年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	35,415	34,191	34,710	32,925	105.4%
売上対排出	kg/百万	97.60	93.70	95.65	84.40	113.3%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	2.08	2.20	2.04	2.22	92.0%
売上対発生	kg/百万	5.72	6.05	5.6	5.68	98.6%
水使用量	総量(m ³ /年)	109	108	107	106	100.9%
省燃費オイル販売数量	L	9,660	7,880	9,855	8,520	86%
省燃費オイル販売比率	省燃費/通常	50%	42%	51.0%	41.0%	80.4%
化学物質	kg	0	0	0	0	0.0%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	9.5%	9.7%	9.7%	7.3%	75.3%

* 2021 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成 30 年)0.574 KDDI を使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.417 KDDI を使用

◇ 二酸化炭素排出量

- ①総排出量は目標 34,710kg に対して実績 32,925kg と 105.4%で達成。売上当たりの排出は目標に対し 113.3%とこちらも達成となっている。2021 年比較でも 1,266kg 減少となった。
- ②エネルギー関連は、電気事業者別排出係数を令和 3 年の排出係数に変更したのが減少の大きな要因である。輸送関連では、前年ほぼ横ばいとなっている。引き続き照明・空調の適正使用、エコドライブの徹底などにより削減を図る。

◇ 一般廃棄物

- ①紙類の排出が多い現況からコピー用紙その他の裏面活用の徹底、並びに再利用・再生利用比率の向上を目指した。
- ②プリンター並びにコピー機利用は極力両面コピー・印刷を促進しコピー用紙の削減を行った。
- ③昨年同様、電子カタログを中心とした業務ペーパーレス化への研究を実施

◇ 産業廃棄物

- ①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

- ①トイレにおける擬音発生装置活用継続
- ②洗車時の節水運動を推進
- ③節水コマの採用により排水量の削減を図った。

◇ リサイクル商品売上高比率

- ①2023 年目標の 9.7%に対して 7.3%と未達、前年に対しても 2.4%の減少。返答の速さの改善と中古の後追いをを行い、後の受注につなげる。

◇ 省燃費オイル販売比率

①2023 年目標の販売量 9,855 L に対して実績 8,520 L と大幅未達。販売比率は目標 51% に対して 41.0% で当然未達、但し前年よりは 640L の増加となり若干の改善はあった。

◇ グリーン購入

その他、郡山西営業所において複写機が買い替えで省エネタイプに変更済み

◇ 化学物質

郡山西営業所において化学物質の使用は無い。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◆ 本宮営業所 2023 年環境負荷実績

本宮営業所		2021年	2022年	2023年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	37,537	34,119	36,790	33,450	110.0%
売上対排出	kg/百万	121.50	106.60	119.10	114.20	104.3%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	0.66	0.56	0.64	0.55	117.2%
売上対発生	kg/百万	2.12	1.74	2.08	1.87	111.2%
水使用量	総量(m ³ /年)	55	55	53	46	115.2%
省燃費オイル販売数量	L	11,620	12,580	11,853	17,860	150.7%
省燃費オイル販売比率	省燃費/通常	33%	34%	33.6%	49.0%	145.8%
化学物質	kg	0	0	0.00	0	0.0%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	6.7%	8.2%	8.0%	8.9%	111.3%

* 2021 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成 30 年)0.574 KDDI を使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.417 KDDI を使用

◇ 二酸化炭素排出量

①総排出量は 2022 年実績の約 34,119kg に対して 669kg の減少、目標に対しても 110% で達成。
エネルギー消費に於いては、電気使用量を 1,131kwh の削減を実行できた。電気事業者別排出係数を令和 3 年排出係数に昨年より変更した為、2 年前より CO2 排出量は大幅減少となった。
輸送関連では、ガソリン使用量はほぼ横ばいとなった。
引き続き照明・空調の適正使用、エコドライブの徹底などにより削減を図る。

◇ 一般廃棄物

①紙類の排出が多い現況からコピー用紙その他の裏面活用の徹底、並びに再利用・再生利用比率の向上を目指した。
②プリンター並びにコピー機利用は極力両面コピー・印刷を促進しコピー用紙の削減を行った。
③電子カタログを中心とした業務ペーパーレス化への研究をスタート

◇ 産業廃棄物

①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

- ①トイレにおける擬音発生装置の活用
- ②洗車時の節水運動を推進
- ③節水コマの採用
- ④ペットボトルをトイレタンク内に入れ節水

◇ 省燃費オイル販売比率

①2023 年目標の 33.6%に対し実績は 49.0%と大幅に達成。

当然ながら、L 目標 11,853L に対して 17,860 L と 6,007L の大幅に達成、前年に対しても 5,280 L の大きく増加となった。

◇ リサイクル商品売上高比率

①2023 年目標の 8.0%に対して実績が 8.9%で達成、前年よりも 0.7%の増加となった。

今後も中古品、リビルトの迅速な対応や後追いさらには新規得意先の獲得を目指しさらなる拡販を目指す。

◇グリーン購入

○A 機器、電化製品が目立った購入はなかった。

◇環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◇化学物質の使用

本宮営業所では使用していません。

◆船引営業所 2023 年環境負荷実績

船引営業所		2021年	2022年	2023年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	25,513	33,076	24,907	33,696	73.9%
売上対排出	kg/百万	83.50	106.10	81.84	112.00	73.1%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	1.34	1.27	1.30	1.27	102.8%
売上対発生	kg/百万	4.4	4.09	4.3	4.2	102.4%
水使用量	総量(m ³ /年)	84	75	82	53	154.7%
省燃費オイル販売数量	L	17,460	17,140	17,813	17,800	100%
省燃費オイル販売比率	省燃費/通常	37%	37%	37.8%	41.0%	108.5%
化学物質	kg	0	0	0	0	0.0%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	11.7%	13.6%	11.9%	12.1%	101.7%

* 2021 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成 30 年)0.574 KDDI を使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.417 KDDI を使用

◇ 二酸化炭素排出量

①総排出量は 2022 年実績 33,076kg に対し 2023 年は約 33,696kg という微増になった。

2022 年実績が 2021 年実績より大幅に増加したが、2023 年も同様な結果となった。

燃料使用量の増加が最大の要因である。但し、電気使用量も増加しているが電気事業者別排出係数を令和 3 年排出係数に変更した為 CO2 排出量は減少となった。

②輸送関連の消費削減には、業務の効率化を図るべく配送コース・配送回数の見直しが改めて必要となる。

(2) 一般廃棄物

①紙類の排出が多い現況からコピー用紙その他の裏面活用の徹底、並びに再利用・再生利用比率の向上を目指した。(両面使用したものはシュレッターし梱包材にて再利用)

②プリンター並びにコピー機利用は極力両面コピー・印刷を促進しコピー用紙の削減を行った。

③電子カタログを中心とした業務ペーパーレス化への研究をスタート

(3) 産業廃棄物

①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

①トイレにおける擬音発生装置活用継続。経年劣化によって水洗機を買い替えた。なお節水モデルにしたことにより節水に大きく変化がみられた。また、女子社員が 1 名減った事により使用量が大幅に減少した。

◇ 省燃費オイル販売比率

① 2023 年度実績に於いては、前年に対して 660 リットルの増加・目標にほぼ 100%の進捗となった。環境に配慮するという面でも省燃費オイル販売促進に力を入れていきたい。

◇ リサイクル商品売上高比率

① 2023 年目標の 11.9%に対して 12.1%と達成。部品点数に於いては前年比 350 点の減少となっている。引き続き目標達成へ向けリサイクル部品の販売に意識を持ち比率を上げて行く。

◇ グリーン購入

〇A 機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

目標に対して課題を明確にし、具体的な行動を考えていく事が重要である。

◆ 県南営業所 2023 年環境負荷実績

県南営業所		2021年	2022年	2023年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	22,690	21,498	22,384	19,368	115.6%
売上対排出	kg/百万	119.40	113.70	117.00	101.40	115.4%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	0.26	0.15	0.24	0.14	167.8%
売上対発生	kg/百万	1.3789	0.82	1.36	0.75	181.6%
水使用量	総量(m ³ /年)	70	43	68	43	158.1%
省燃費オイル販売数量	L	7,740	4,320	7,895	2,400	30.4%
省燃費オイル販売比率	省燃費/通常	47%	38%	48.0%	43.0%	89.6%
化学物質	kg	0	0	0.00	0	0.0%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	14.0%	14.6%	14.4%	14.6%	101.4%

* 2021 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成 30 年)0.574 KDDI を使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.417 KDDI を使用

◇ 二酸化炭素排出量

①総排出量は目標 22,384kg に対して 19,368kg と達成。

エネルギー消費関連では、電気使用量は 361kWh 減少・輸送関連では、ガソリン・軽油共に使用量とともに減少した為、総排出量を大幅に削減できた。

② 燃料の使用量は配送の効率化 遠くのお客様在庫分のついで便で納品。ユーザー毎出来る限りまとめ配送で急ぎの部品店頭引き取り増で燃料削減を図る。

事務所の西側が大きなガラスになっており西日対策を行い電気使用量の削減を図る。

◇ 一般廃棄物

① 紙類の排出を削減するため、出来る限りペーパーレス。

② 印刷の際なるべく間違いを無くすためにカラーで活用

◇ 産業廃棄物

①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

①昨年前年比 27 m³減少した使用量を本年も維持することができた。

②トイレにおける擬音発生装置の活用。

③洗車時のバケツ活用節水運動を推進

◇ リサイクル商品売上高比率

①2023 年目標に対して達成率 120%、但し販売点数は 153 点の微増であった。

◇ 省燃費オイル販売

①省燃費オイルの販売比率目標 48.0%に対して 43%と未達。但し、前年比率 38%から 5%の改善はできた。引き続き、重要販売品目として積極的に営業をしていく。

◇OA機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進活動を行った。

◇化学物質の使用

県南営業所においては化学物質の使用はありません

◆イエローハット郡山南店 2023 年環境負荷実績

イエローハット郡山南店		2021年	2022年	2023年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	34,326	31,210	33,640	29,379	114.5%
売上対排出	kg/百万	186.16	194.00	171.00	177.00	96.6%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	41.35	40.14	40.30	38.90	103.6%
売上対発生	kg/百万	224.24	205.90	219.80	219.66	100.1%
水使用量	総量(m ³ /年)	114	126	111.70	126.00	88.7%
化学物質	kg	4.67	4.67	4.40	4.67	94.2%
省燃費オイル販売件数	件	1,254	1,116	1,305	1,233	94.5%
省燃費オイル販売比率		63.24%	71.40%	67.24%	72.31%	107.5%
低燃費タイヤ販売本数	本	2,073	2,121	2,156	2,056	95.4%
低燃費タイヤ販売比率		76.35%	70.60%	80.35%	71.53%	89.0%

* 2021 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成 30 年)0.494 ENEOS を使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.477 ENEOS を使用

◇ 二酸化炭素排出量

- ① 二酸化炭素排出量は、約 29,379kg となっており、目標に対しては 114.5%と大幅に達成。今後は細目に電気のスイッチを切る、時間を決めてエアコンのスイッチを落としていきます。それと使わない所の照明の使用削減に努めていきます。
- ② エネルギーに関しては、電気使用による二酸化炭素排出量が 27,172kg と 93%をしめました。主に事務所やバックルームをこまめに消灯。閉店直後に店舗照明を消す様にしています。エアコンを一気に全部使うことはせず、室温を管理し台数に気を付け使用して電気代を下げっていきます。決めた時間にエアコンのスイッチを切っていきます。
- ③ 30 分デマンドにより基本料金の削減活動をしていました。基本料金は昨年と同じ状況になっているので特に 12 月、1 月、2 月に上がりやすくなっているのを気を付けて管理して基本料金も下げっていきます。
- ④ ガソリンに関して昨年比ほぼ横ばい。社用車にハイブリッド車を導入した事で使用量抑制を維持できている。

◇ 一般廃棄物

- ① ゴミ類の分別の徹底、リサイクル可能な廃棄物の明確化。
- ② 裏面未使用のコピー用紙の再利用の継続徹底

◇ 産業廃棄物

当店だとタイヤがメインでの排出が約 94.9%となっております。ですがタイヤは熱回収、アルミホイールと鉄くずは金属回収を行っていますので多くは再資源になっています。

◇ 水使用量

当店での使用量は 126 m³で 200 l ドラム 630 本相当になります。昨年比横ばい、作業では車のコーティングの獲得が今後増えている影響で、洗車での水使用が増加の要因。

◇ 化学物質

パーツクリーナーの使用のみとなっています。目標 10 缶以下は達成できませんでした。今後は更に作業で必要以上に使用しないこと、極力汚さないことを心掛けていようしていきます。10 缶以下を目標にします。

◇ グリーン購入

OA機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇ 低燃費タイヤ、・燃費オイル販売

今年は低燃費タイヤの本数は目標に対して-100 本の 95.4%で未達、昨年よりも-65 本と僅かながらのマイナス。2021 年と比較しても-17 に終わってしまった。更なる、低燃費タイヤ販売への案内不足を反省。省燃費オイルの販売件数は、117 件の増加となったが目標に対しては 72 本の未達。但し、件数・比率ともに前年は上回る結果となった。省燃費オイルに於いても販売への課題が残ってしまった。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◆イエローハット白河店 2023 年環境負荷実績

イエローハット白河店		2021年	2022年	2023年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂)	79,674	82,206	78,500	72,054	108.9%
売上対排出	kg/百万	386.93	397.10	360.00	332.00	108.4%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	41.86	46.07	40.00	58.40	68.5%
売上対発生	kg/百万	203.29	222.50	195.00	269.10	72.5%
水使用量	総量(m ³ /年)	150	170	150	171.00	87.7%
化学物質	kg	5.85	5.85	5.46	6.24	87.5%
省燃費オイル販売件数	件	1,923	1,766	1,970	1,856	94.2%
省燃費オイル販売比率		59.10%	53.70%	60.00%	55.67%	92.8%
低燃費タイヤ販売本数	本	2,094	2,178	2,500	2,086	83.4%
低燃費タイヤ販売比率		73.40%	71.20%	75.00%	71.56%	95.4%

* 2021 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(平成 30 年)0.523 須賀川瓦斯 を使用

* 2022/2023 年は電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.425 須賀川瓦斯 を使用

◇ 二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量は、72,054kg となっており、目標に対して 108.9%と大幅に達成。

エネルギーに関しては、電気使用による二酸化炭素排出量が 27,172kg と 93%をしめました。主に事務所やバックルームをこまめに消灯。閉店直後に店舗照明を消す様にしていきます。エアコンを一気に全部使うことはせず、室温を管理し台数に気を付け使用して電気代を下げしていきます。決めた時間にエアコンのスイッチを切っていきます。

今後は細目に電気のスイッチを切る、時間を決めてエアコンのスイッチを落としていきます。それと使わない所の照明の使用削減に努めていきます。

30分デマンドの実施、意識づけ。電気起動を段階的に分けることを実施。特に冬場のエアコン起動の順序、タイミングには注意を払う。

◇ 一般廃棄物

- ① ゴミ類の分別の徹底、リサイクル可能な廃棄物の明確化。
- ② 裏面未使用のコピー用紙の再利用の継続徹底

◇ 産業廃棄物

生利用の比率の向上を目指す。

◇ 水使用量

- ①ピットの水道の止め忘れ防止。
- ②洗車時、洗車機のスイッチをこまめに止めるよう徹底。

◇ 化学物質

化学物質含有のパーツクリーナの使用量は、15缶で前年より1缶減。今後もピットを汚さないよう心がけて無駄な使用を控えていく。

◇グリーン購入

前述の店舗蛍光灯をすべてLED化に変更済。(2019年2月)

◇低燃費タイヤ、省燃費オイル

低燃費タイヤ比率は目標に対して83.4%、本数で前年比-92本。廉価なプライベートブランドも低燃費タイヤにシフトしてきており、低燃費タイヤのラインアップが増えている事がここ3年横ばいに推移している。

省燃費オイルは前年比では、件数・比率ともにクリアしているが目標には未達。エコカーが増えてはきている状況の中、低燃費車に適したオイルをしっかりと案内をする。

◇環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◆◆ 環境活動の取組結果の評価 ◆◆

(1) 数値目標を達成するための取組

◇ 本社事業所・郡山・郡山西・本宮・船引・県南営業所

環境目標	取組内容	評 価
①二酸化炭素 排出量	不要箇所の消灯 LED 管への交換 冷暖房温度の基準遵守（冷房 26 度・暖房 21 度）	概ね徹底 実施済み 概ね達成（室温管理） 使用時間の短縮
	アイドリング時間の削減 （e-テレマ車 20%以内目標） エコドライブの徹底 （e-テレマ 危険挙動ゼロ活動） 社有車の更新は、エコカーを優先する 燃費改善運動の展開 配送体制の見直し	励行されている スノーブラシの再配備 概ね励行されている 役職者による指導 ヒヤリハットの共有 軽自動車の増加 PHV車1台, HV車11台保有 改善レベルを維持 逐次実施
	原単位の評価	船引が未達、 全事業所達成を再度目指す
②一般廃棄物 排出量	コピー用紙の両面使用 分別ボックスを設置し、分別を徹底する ・原単位の評価	会議資料等は徹底されている が、生活における排出が増加、 改善を目指す 郡山西が未達、 全事業所達成を再度目指す
③産業廃棄物 排出量	産業廃棄物の分別を徹底して、再資源化及び再 利用を推進する 単純焼却、最終処分の削減を図る ・原単位の評価	概ね実施されている 概ね達成 一般廃棄物と同じ
④総排水量	社内の節水運動を推進する 女子トイレに音姫設置の活用 洗車用水の節水を推進する 洗車ホースの漏水等の防止	概ね励行 使用は徹底 概ね励行 定期的に確認

	節水コマの活用	一部導入
⑤リサイクルパーツ 取扱拡大	営業活動に於いて積極的に販売する 売り上げ構成比率目標の達成を目指す	積極活動を実施しかしながら 郡山・郡山西が未達、 全事業所達成を 再度目指す 営業活動を強化する。
⑥省燃費オイル の販売	営業活動において積極的に販売する 売上総量と共に販売比率を目標とする	販売総量・販売比率とも未達が 郡山西・県南 販売数量のみ未達が船引 適応車輛からみても全営業達成 を目指す
⑦グリーン購入	電気製品、ＯＡ機器は指定品優先 一般備品の購入時グリーン購入の励行	電気製品、ＯＡ機器は １００％実施
⑧環境委員会活動	各部署を代表して EA21 活動を推進する	日々の活動に併せ、月一回の実 績検討会を利用して活動を推進 した。
⑨地域・社会貢献 活動	地域清掃活動（近隣清掃）を月２回行った 概ね、全社員が各家庭で、節電・節水を実施 しているが、更に啓蒙活動を行う。	月２回の近隣清掃実施 郡山駅前街頭清掃に参加

◇ 金屋テクニカルセンター

環境目標	取組内容	評価
①二酸化炭素 排出量	不要箇所の消灯 冷暖房温度の基準遵守（冷房 26 度・暖房 22 度）	概ね徹底 概ね達成（室温計活用）
	アイドリング時間の削減 エコドライブの徹底 燃費改善運動の展開 灯油、LPG、燃料の削減 ・原単位の評価	概ね励行されている 概ね励行されている 概ね励行されている 燃料以外で削減 原単位では達成
②一般廃棄物 排出量	コピー用紙の両面使用 分別ボックスを設置し、分別の徹底	概ね励行 概ね励行

	・原単位の評価	達成
③産業廃棄物 排出量	産業廃棄物の分別を徹底して、再資源化及び再利用を推進する 単純焼却、最終処分の削減を図る ・原単位の評価	概ね実施されている 業務変更により 総量・原単位共に達成
④化学物質	オートガラス課プライマー	使用量抑制を図る
⑤総排水量	社内の節水運動を推進する 洗車用水の節水を推進する ・原単位の評価	概ね励行 概ね励行
⑥リサイクルパーツ 販売拡大	リサイクル部品やリビルトパーツ取扱拡大を推進する	業務内容変化により減少 目標 17,757 点に対して 実績 15,868 点で未達 更なる、販売強化を図る
⑦地域・社会貢献 活動	地域清掃活動（近隣清掃）を月 2 回行った 概ね、全社員が各家庭で、節電・節水を実施しているが、更に啓蒙活動を行う。	月 2 回の近隣清掃実施 郡山駅前街頭清掃に参加

◇ イエローハット部門

環境目標	取組内容	評 価
①二酸化炭素 排出量	不要箇所の消灯 蛍光灯点灯本数の削減 LED 管への交換 冷暖房温度の基準遵守（冷房 26 度・暖房 20 度）	概ね徹底 概ね実施 順次実施、両店済み 概ね達成 使用時間の短縮
	アイドリング時間の削減 エコドライブの徹底 社有車の更新は、エコカーを優先する 燃費改善運動の展開	概ね励行されている 概ね励行されている お客様への啓蒙活動 HV 車 1 台保有 改善レベルを維持

	原単位の評価	郡山南が未達。 但し、両店とも総量は削減。
一般廃棄物 排出量	コピー用紙の両面使用 分別ボックスを設置し、分別を徹底する	会議資料等は徹底されているが、生活における排出が増加、改善を目指す
③産業廃棄物 排出量	産業廃棄物の分別を徹底して、再資源化及び再利用を推進する 単純焼却、最終処分の削減を図る ・原単位の評価	概ね実施されている 郡山南店のみ達成。 白河店では、総量・原単位ともに未達。
④総排水量	社内の節水運動を推進する 女子トイレに音姫設置の活用 洗車用水の節水を推進する 洗車ホースの漏水等の防止 節水コマの活用	概ね励行 使用は徹底 概ね励行 定期的に確認 一部導入
③ 化学物質	パーククリーナの使用抑制 代替品の研究を推進する	代替品なし 使用量増減なし 継続的に研究
④ グリーン購入	電気製品、OA機器は指定品優先 一般備品の購入時グリーン購入の励行	電気製品、OA機器は 100%実施
⑧環境委員会活動	各部署を代表して EA21 活動を推進する	日々の活動に併せ、月一回の会議等を利用して活動を推進した。
⑨地域・社会貢献 活動	地域清掃活動（近隣清掃）を月2回行った 概ね、全社員が各家庭で、節電・節水を実施しているが、更に啓蒙活動を行う。	月2回の近隣清掃実施 郡山駅前街頭清掃に参加
⑩低燃費タイヤ・ 省燃費オイル販売	お客様に環境に配慮した商品をオススメ販売する。（低燃費オイルは0W-20、5W-20、0W-16を対象とする。低燃費タイヤはラベリング制度において転が抵抗性能がA以上、ウェット性能C以上の物を対にします。）	南店の省燃費オイル比率以外 全て未達。 車両からみても、該当車両が主流の為、再度販売を強化

(2) 社員の意識高揚

2003 年 10 月からの分別活動等により、今まで意識しなかった環境負荷、地球温暖化等に対し理解が深まり、ゴミの削減等に対しての協力が得られるようになって来た。

今後は、省エネ、リサイクル等に於いて一層の協力が得られるように活動して行く。

07 年 7 月を中心に社員の家庭を対象とした消費電力削減キャンペーンを実施することにより ea21 活動への理解を深め以降毎年実施して現在に至る。

郡山市主催のエコオフィス認定制度に申し込みを行い 2008 年 9 月よりその活動を実施、2009 年 8 月に 1 年の活動を集計、エコオフィス認定を受け、現在に至る活動としている。エコドライブ推進に当たっては本社・郡山営業所関係車両を中心に「e-テレマ」管理システムを導入してきたが、現在は全事業所を対象に導入車両を増やして更なるエコドライブの推進を図っている

◆◆ 環境目標と主要な活動計画の内容 ◆◆

◆今年度以降の目標

新基準採用目標 2022 年目標(2022 年以降 3 ヶ年目標)

電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和 3 年)0.417 KDDI を使用

本社・郡山西・本宮・船引・県南は同係数を使用

本社事業所		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	167,529	165,854	164,195	162,553
売上対排出	kg/百万	132.70	131.4	130.0	128.7
廃棄物発生量	総量(トン/年)	17.48	17.3	17.1	16.9
売上対発生	kg/百万	13.85	13.71	13.56	13.42
水使用量	総量(m ³ /年)	415	411	407	403
化学物質	kg	0.00	0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	35,660	36,017	36,377	36,741
省燃費オイル販売比率	%	42%	42.5%	42.9%	43.3%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	11.6%	11.7%	11.8%	11.9%

郡山西営業所		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	35,415	35,061	34,710	34,363
売上対排出	kg/百万	97.60	96.62	95.65	94.69
廃棄物発生量	総量(トン/年)	2.08	2.06	2.04	2.02
売上対発生	kg/百万	5.72	5.66	5.60	5.54
水使用量	総量(m ³ /年)	109	108	107	106
化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	9,660	9,757	9,855	9,954
省燃費オイル販売比率	%	50%	50.5%	51.0%	51.5%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	9.5%	9.6%	9.7%	9.8%

本宮営業所		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	37,537	37,162	36,790	36,422
売上対排出	kg/百万	121.5	120.3	119.1	117.90
廃棄物発生量	総量(トン/年)	0.66	0.65	0.64	0.63
売上対発生	kg/百万	2.12	2.10	2.08	2.06
水使用量	総量(m³/年)	55	54	53	52
化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	11,620	11,736	11,853	11,972
省燃費オイル販売比率	%	33%	33.3	33.6	33.9
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	7.8%	7.9%	8.0%	8.1%

船引営業所		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	25,513	25,159	24,907	24,658
売上対排出	kg/百万	83.50	82.67	81.84	81.02
廃棄物発生量	総量(トン/年)	1.34	1.32	1.30	1.28
売上対発生	kg/百万	4.4	4.35	4.30	4.25
水使用量	総量(m³/年)	84	83	82	81
化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	17,460	17,637	17,813	17,991
省燃費オイル販売比率	%	37%	37.4%	37.8%	38.2%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	11.7%	11.8%	11.9%	12.0%

県南営業所		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	22,690	22,463	22,384	22,160
売上対排出	kg/百万	119.40	118.20	117.00	115.80
廃棄物発生量	総量(トン/年)	0.26	0.25	0.24	0.23
売上対発生	kg/百万	1.38	1.37	1.36	1.34
水使用量	総量(m³/年)	70	69	68	67
化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	7,740	7,817	7,895	7,974
省燃費オイル販売比率	%	47%	47.5	48.0	48.5
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	14.0%	14.2%	14.4%	14.6%

金屋テクニカルセンター		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	39,711	39,313	38,920	38,530
売上対排出	kg/百万	112.30	111.20	110.01	108.91
廃棄物発生量	総量(トン/年)	30.30	29.99	29.69	29.39
売上対発生	kg/百万	85.61	84.75	83.90	83.06
水使用量	総量(m ³ /年)	107	106	105	104
化学物質	kg	11.52	11.40	11.29	11.18
リサイクル販売点数	個数	17,407	17,581	17,757	17,935
CO2削減効果	1点X48kg	835,536	843,888	852,336	860,880

* 電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和3年)0.425 須賀川瓦斯 を使用

イエローハット郡山南店		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	34,326	33,980	33,640	33,310
売上対排出	kg/百万	186.16	180.00	171.00	163.00
廃棄物発生量	総量(トン/年)	41.35	40.80	40.30	39.80
売上対発生	kg/百万	224.24	222.00	219.80	217.60
水使用量	総量(m ³ /年)	114.00	112.80	111.70	110.60
化学物質	kg	4.67	4.50	4.40	4.30
低燃費タイヤ販売本数	本	2,073	2,114	2,156	2,200
低燃費タイヤ販売比率		76.35%	78.35%	80.35%	82.35%
省燃費オイル販売件数	件	1,254	1,280	1,305	1,330
省燃費オイル販売比率		63.24%	65.24%	67.24%	69.24%

* 電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和3年)0.477 ENEOS を使用

イエローハット白河店		2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	79,674	79,000	78,500	78,000
売上対排出	kg/百万	386.93	370.00	360.00	350.00
廃棄物発生量	総量(トン/年)	41.86	41.00	40.00	39.00
売上対発生	kg/百万	203.29	200.0	195.0	190.0
水使用量	総量(m ³ /年)	150	150.0	150.0	150.0
化学物質	kg	5.85	5.85	5.46	5.46
低燃費タイヤ販売本数	本	2,094	2,400	2,500	2,600
低燃費タイヤ販売比率	%	73.4	74.0	75.0	76.0
低燃費オイル交換件数	件	1,923	1,950	1,970	2,000
低燃費オイル交換比率	%	59.1	59.5	60.0	60.5

* 電気事業者別二酸化炭素排出係数(令和3年)0.425 須賀川瓦斯 を使用

◆本社事業所・郡山営業所

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量（省エネに関する取組）

①エネルギー関連

○消費電力削減活動

- ・温度計による室温管理により極度の暖房や冷房(暖房 21℃冷房 26℃)の使用に注意する。
- ・温度計での温度・湿度での体感温度を調整する。
- ・自動ドアの開け閉めでの温度調整。
- ・本社一階についているブラインドの有効活用をする。
- ・使用していない時は照明をこまめに消す。
- ・日曜当番時の暖房・冷房の効率化を図る。
- ・サービス課内の節電・冷暖房のチェックを昨年に引き続き継続する。
- ・朝礼時は一階事務所一列のみ照明を点灯させるまた、倉庫暖房を消す。

○灯油・LPG使用

- ・張り紙等の表示をして夏場の湯沸かし器また使用水削減の抑制。
- ・室温を 21℃とし、暖房温度また湿度管理は温度計を利用して適切に行う。
- ・作業所関連の冷暖房器具の滞在時のみの適正利用化を図る。

②輸送関連燃料消費削減

○燃費改善活動

- ・エコドライブの徹底を図る。
- ・車輛別燃費の確認は前年度を基準にコース別に燃費率をだし毎月確認・告示する
- ・低燃費車の購入を優先する。
- ・テレマティクスでの燃費削減と、運転技術の向上。
- ・テレマティクスでの意識改善を図る。

○走行距離削減活動

- ・配送ミス、出庫ミスの撲滅をはかり無駄な配送を減らす。
(誤配送のカウント)
- ・問屋さんとの連携を図り定期便の有効活用とスムーズな配達の実施をする。
- ・郡山倉庫ラインナップの強化し無駄な問屋ディーラー周りをなくす
(配達の効率化)

- ・急ぎ便の配達効率化*配達ルートの効率化
- ・各コース分けずの配送検討

○車輛購入の新規購入は低燃費車を優先する

2) 廃棄物の排出量（リサイクルに関する取組）

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を上げると共に、削減に努める

- ①紙類 白上質紙、新聞紙、段ボール、その他の紙類
- ②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、紙パック、発泡スチロール、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ
- ③産業廃棄物 金属クズ、廃プラスチック、アルミホイール、廃タイヤ、廃バッテリー、ブレーキライニング、自動車ガラス
最終処分、単純焼却を減らすためにメーカー、関連業者との連携を深め
処理技法の見直し等を常に行う。
- ④電子カタログを用いたシステム業務の見直しを図ることにより、受発注時におけるペーパーレス化の研究を行う。
- ⑤お客様にも呼び掛けを行い、自社分の廃棄物は自社で処理してもらえないか検討する。
- ⑥段ボールはリサイクルで活用する
- ⑦ドキュワークスの活用によるD X化を図る

3) 水使用量（節水の取組）

- ①女子トイレの擬音発生装置の活用と使用後の手洗いをタンク補充時の水で行う。（タンクへのペットボトル活用で容量削減を継続する）
- ②洗車はバケツに汲み取り行い節水へ。
- ③節水コマの活用
- ④散水設備の水漏れ点検を定期的に行う
- ⑤雨水活用の可能性を研究する
- ⑥水使用時流したままにしないように注意する。

4) リサイクル商品の販売

- ①自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う
- ②新品商品の販売時、自主的にリサイクルパーツの案内をお客様に提案する。
- ③新品部品(欠品商品含む)等高価な商品は中古品も確認を行う。
- ④自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う。
- ⑤リサイクル部品がでてこなくても、時間を置いて再度確認しなおす。
- ⑥リビルト品の有効活用/管理コードの徹底

5) 省燃費オイルの販売

指定粘度のオイルを使用する事で省燃費に貢献できるエンジンオイルの拡販

に努め、販売総量とその比率を目標とする

6) グリーン購入

- ①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する
- ②電気製品、OA機器は適合品があれば適合品を選定する
- ③トイレットペーパーは100%再生紙を使用する
- ④リサイクルパーツ取り扱い拡大を重要課題として活動する

(2) その他の取組

- ①社員の環境への意識高揚のためにエコ検定の取得を目指して自主的な受験の参加を呼びかける。
- ②環境委員会でない全従業員への理解を深めてもらう(啓蒙活動を含む)活動を続ける。
- ③取組み状況チェック表を活用し、従業員全員での活動していく。
- ④エコバッテリーの拡販(従来品より燃費の向上)

◆郡山西・本宮・船引・県南営業所

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量(省エネに関する取組)

①エネルギー関連

○消費電力削減活動

- ・事業所照明のLED切り替えを終了。
- ・グリーンカーテンやガラスへの遮光フィルム等の貼付けを実地し夏場の消費電力の削減に努める。
- ・よしず等遮光を実施して空調機器の使用時間を短縮させる
- ・温度計による温度管理により極度の暖房や冷房の使用に注意する。
- ・使用していない時は照明をこまめに消す。
- ・朝礼は明るい場所で行い照明は点灯しない
- ・倉庫の照度の不足するところはセンサータイプの照明をつける(船引)
- ・夏場における家庭での消費電力削減活動を行う。
- ・古い空調設備の入れ替えを検討する(船引)
- ・照明をこまめに消す(倉庫、人のいない事務所)
- ・事務所窓際、通路など蛍光灯の間引きを行う。
- ・照度の不足するところは蛍光灯に反射板を使用する
- ・残業時間を減らし夜間の消費電力を抑える

○灯油・LPG使用

- ・冬期21度、夏期26度とし、暖冷房温度管理を温度計の利用で適切

に行う。

- ・暖房器具の温度計とは別に温湿度計の設置
- ・張り紙等の表示をして夏場の湯沸かし器の使用の抑制。
- ・元栓をして、不必要な湯沸かし器の使用を抑制する

②輸送関連燃料消費削減

○燃費改善活動

- ・エコドライブの徹底を図る。
- ・車輻別燃費の確認を、前年度実績を基準に毎月確認・告示する。

○走行距離削減活動

- ・配送ミス、出庫ミスの撲滅をはかり無駄な配送を減らす。
- ・配送の効率化の見直し
- ・車輻の使用台数の効率化。
- ・出庫ミス、配送ミスの撲滅を図り、無駄な配送をなくす
- ・出庫ミス・配送ミスをカウントし要因を探り問題を解決する
(原因を明確にし、対策を考える)
- ・自社在庫の活用（定期的な見直しをはかる）

○車輻購入の新規購入は低燃費車を優先する

2) 廃棄物の排出量（リサイクルに関する取組）

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を上げると共に、削減に努める

①紙類 白上質紙、新聞紙、段ボール、その他の紙類

②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、紙パック、発泡スチロール、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ

③産業廃棄物 金属クズ、廃プラスチック、アルミホイール、廃タイヤ、廃バッテリー、ブレーキライニング、自動車ガラス

最終処分、単純焼却を減らすためにメーカー、関連業者との連携を深め
処理技法の見直し等を常に行う。

④電子カタログを用いたシステム業務の見直しを図ることにより、受発注時におけるペーパーレス化の研究を行う。

⑤お客様にも呼び掛けを行い、自社分の廃棄物は自社で処理してもらえないか検討する。

⑥段ボールはリサイクルで活用する

⑦ドキュワークスの活用によるD X化を図る

3) 水使用量（節水の取組）

①擬音発生装置の活用と合わせ、使用後の手洗いをタンク補充時の水で行う（タンクへのペットボトル活用で容量削減を継続する）

②洗車はバケツにくみ取り行うことにより節水に努める

③節水コマの活用

④散水設備の水漏れ点検を定期的に行う

⑤雨水活用の可能性を研究する

4) リサイクル商品の販売

①自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う

②新品商品の販売時、自主的にリサイクルパーツの案内をお客様に提案する。

③品揃えの強化。

④自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う。

⑤リサイクル部品でも松竹梅と提案しお客様に選んでもらう

5) 省燃費オイルの販売

指定粘度のオイルを使用する事で省燃費に貢献できるエンジンオイルの拡販に努め、販売総量とその比率を目標とする

6) 化学物質の取り扱い

・現在の使用しない環境を維持する

7) グリーン購入

①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する

②電気製品、O A機器は適合品があれば適合品を選定する

③トイレットペーパーは100%再生紙を使用する

④リサイクルパーツ取り扱い拡大を重要課題として活動する

(2) その他の取組

①社員の環境への意識高揚のためにエコ検定の取得を目指して自主的な受験の参加を呼びかける。

②夏場の消費電力削減キャンペーンの積極的な参加を呼びかける。

③環境委員会でない全従業員への理解を深めてもらう(啓蒙活動を含む)活動を続ける。

④地元自治体等の活動にも積極的に参加し、地域社会への貢献に努める。P・D・C・Aのサイクルを実践。(船引)

⑤エコバッテリーの積極的な販売。

◆金屋テクニカルセンター

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量

①車輦の燃料消費削減

・アイドリング削減、3分以上車を停車する場合はエンジンを停止させる。

- ・オイル配送車のルート効率化を図り走行距離の削減に努める。
 - ・号車毎の燃費改善に努める
 - ・エコドライブの徹底を図る
- ②空調設備の適正使用により省エネに努める
 - ③灯油、LPGの使用は適切に行う。不要なまとめ買いを行わない
 - ④事務所の冷房効果を高める為に西日遮光を実施する（サンシェード他）
 - ⑤グリーンポイントクラブ活動を推進することでお客様の低炭素社会構築の意識高揚に努める
 - ⑥太陽光パネル設置

2014年4月実施（発電量 15kWh）

2) 廃棄物の排出

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を高めると共に削減に努める

- ①紙類 段ボール、その他の紙類
- ②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ
- ③単純焼却、最終処分の発生ゼロを目指し分別の徹底と有価物化を推進する
- ④リターナブル梱包の実践

業界で研究中のリターナブル梱包の実践により梱包材の削減を図る

3) 水使用量

- ①トイレ排水の削減 貯水タンクにペットボトルを沈め、削減を図る
- ②洗車及び分品洗浄 バケツの活用により節水に努める
- ③節水コマの活用を検討する

4) リサイクルパーツ拡販活動

- ①直接業務でもあるがリサイクル部品の生産販売の拡大を図ることが一番の環境負荷軽減活動と捉え積極営業を展開する

- ① 取り扱い点数に於いては前年を下回らない様に活動する
(2022年 16,598点)

5) 化学物質の取り扱い

- ①オートガラス課が使用、増やさないように管理していく

6) グリーン購入

- ①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する
- ②電気製品、OA機器は適合品があれば100%
- ③トイレトペーパーは100%再生紙を使用する

◆イエローハット部門

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量（省エネに関する取組）

①エネルギー関連

○消費電力削減活動

- ・ 30 分デマンドを行い、瞬間デマンド値を下げ、コスト削減に努める。
- ・ 空調（エアコン）を常に全部使用せず、交互に使用する。
- ・ 季節に合う植物をプランターに植え季節感、緑を演出（白河）
- ・ 照明をこまめに消す（バックルーム、人のいない事務所）
- ・ 朝礼時は店内一列のみ照明を点灯させる
- ・ 店内照明の千鳥点灯を推進。（白河店）
- ・ 冷暖房温度管理を適切に行う。（夏場 26 度、冬場 20℃）
- ・ 空調機器の閉店前遮断活動の徹底

○灯油・LPG使用

- ・ 夏場の瞬間湯沸かし器の使用を抑制する（張り紙表示）

②輸送関連燃料消費削減

○燃費改善活動

- ・ エコドライブの徹底を図る（各店社員に呼びかけ）
- ・ 代車のアイドリング削減をメーターもしくは車内に設置。

2) 廃棄物の排出量（リサイクルに関する取組）

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を上げると共に、削減に努める

①紙類 白上質紙、新聞紙、段ボール、その他の紙類

②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、紙パック、発泡スチロール、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ

③産業廃棄物 金属クズ、廃プラスチック、アルミホイール、廃タイヤ、廃バッテリー

最終処分、単純焼却を減らすためにメーカー、関連業者との連携を深め処理技法の見直し等を常に行う。

3) 水使用量（節水の取組）

① 手洗い設備において節水を心がける（小まめに止める）

② 洗車はバケツにくみ取り行うことにより節水に努める尚ピット垂れ流し防止

③ 節水コマの活用（両店に存在するか確認）

④ 散水設備の水漏れ点検を定期的に行う

⑤ ポリマーコート作業中、こまめに蛇口を捻る。

4) 省燃費オイル・低燃費タイヤ販売

(省燃費オイルは0W-16、0W-20、5W-20を対象とする。低燃費タイヤはラベリング制度において転がり抵抗性能がA以上、ウェット性能C以上の物を対象にします。)

(ア)省燃費オイル・低燃費タイヤを販売促進。

(イ)お客様に環境に配慮した商品を提案していく。

5) 化学物質の取り扱い

パーツクリーナ使用削減 10 缶以下にする。(2023 年郡山南店 13 缶、白河 15 缶)

6) グリーン購入

①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する

②電気製品、OA機器は適合品があれば100%

③トイレットペーパーは100%再生紙を使用する

(2) その他の取組

社員一人一人に分別意識を持ってもらい細かく分け資源に出来るものは資源にすることを課題にして廃棄物を減らし、二酸化炭素排出を減らします。

年間で両店廃タイヤの量は特別多いですが、むしろ多くし売り上げに反映し他の部分での削減を今後増やす活動を心がけます。

◆環境関連法規への違反、訴訟等の有無◆

適用となる主な環境関連法規

■制定日：2016年1月28日

■改定日：2016年11月26日（フロン排出抑制法 簡易点検）

■最新版チェック：毎年1月に実施

■最新版確認手順

下記HPによって、該当する法律を検索し、直近の改訂時期を確認、前回チェック時点以降の改訂法規等は関連条文に変更がないかどうかを確認する。
若しくは、関連到達等によって、改訂の内容を確認する。

■法令データベース等

■環境省HP（法令・告示・通達）

■部署名：

■実施日：

■実施者：

■遵守状況の評価

○：問題ない

△：法違反ではないが、問題あり（放置すると違反の可能性あり）

×：法律に違反している状態（至急改善を要する）

（△×の項目については、是正処置を行い、その結果を記録する）

法令等の遵守すべき内容	条項等	該当部署	法令等の適用を受ける 設備、行為の詳細	期間等の規制
■廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法：廃掃法）				
産業廃棄物処理業の許可	第14条	リサイクル事業部	産業廃棄物処理業許可申請書（収集・運搬）5年毎の更新	5年毎の更新
産業廃棄物処理業の変更許可	第14条の2		産業廃棄物処理業の変更があった場合	発生都度
産業廃棄物保管基準	第12条 2		産業廃棄物の保管	
特別管理産業廃棄物排出	第12条の2 6		自動車用バッテリーの排出	発生都度
産業廃棄物管理票の交付	第12条の3、規則8の26		管理票の送付、回付	送付期限10日
産業廃棄物管理票の保管	第12条の3 6、規則8の21の2		管理表の保管	5年間以上
廃棄物の排出				
全般	第3条	自己処理の原則	事業活動に伴い発生した廃棄物は自らの責任で適正に処理すること。	
	第5条	清潔の保持	土地の占有者（管理者）は、管理している土地、建物を清潔に保つこと。	
一般廃棄物の処理	第6条の2	排出事業所	一般廃棄物の分別、保管等を行い、市町村に協力する義務がある。	
一般廃棄物処理の委託	政令4条の4	排出事業所	一般廃棄物の運搬、処分を他人に委託する場合、許可された業者に委託すること。	
	規則1条の17	排出事業所	委託業者の事業の範囲を許可証により確認すること。	
産業廃棄物の処理	第11条	排出事業所	事業者は、産業廃棄物を自ら処理しなければならない。	
廃棄物保管基準	第12条他	排出事業所	廃棄物が運搬までの間、保管基準に従い、保管すること。	
産廃掲示板	政令6、規則8	排出事業所	周囲に囲いを設け、見やすいところに掲示板（規定の大きさと表示内容）を設置（対象：産廃）	
産廃処理の委託	第12条他	排出事業所	運搬・処分・再生を委託するときは、許可を受けた処理業者であること。	
		排出事業所	委託業者の事業の範囲を許可証により確認すること。	
		排出事業所	委託契約は、収集運搬業者及び処分業者と別々に行うこと。	
委託契約書の発行	政令6条の2の6	排出事業所	委託契約は、必要な添付書類（規則8条の4）を添えて、書面により行う。	

産業廃棄物管理表(マニフェスト)		排出事業所		
管理票の交付	第12条の3	排出事業所	産廃の運搬・処分を委託する場合には管理表を交付する。 (廃棄物の種類毎に発行)	
最終処分の確認		排出事業所	排出した産業廃棄物の最終処分をE 票の返送で確認する。	
調査と 報告		排出事業所	90日以内にB 2票、D 票が返却されない場合、管理票交付後180日経過しても、E 票の返却がない場合、委託先に調査後、県知事へ報告提出する。	B 票: 90日 E 票: 180日
保管期間		排出事業所	管理票は5年間以上、適切に保管する。	5年間以上
管理票の返却 (返却日の記入)	規則8条の23	排出事業所	運搬を終了した日から原則10日以内にB 2票が返送されていること。	10日
	規則8条の25	排出事業所	処分を終了した日から原則10日以内にD 票が返送されていること。	10日
知事・市長への報告	規則8条の27	排出事業所	管理票交付状況を毎年6月30日までに様式3により 郡山市長・知事に報告する。	
■使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)				
引取業者	第42条、第43条	リ サイクル事業部	引取業者の県知事への登録	5年毎の更新
	第46条		引取業者申請事項の変更届	30日以内
	第48条		廃業等の届出	30日以内
フロン類回収業者	第53条、第54条	リ サイクル事業部	フロン類回収業者の県知事への登録	5年毎の更新
	第57条		フロン類回収業者申請事項の変更	30日以内
	第11条、第12条		当該使用済自動車の引取とフロン 類の回収義務	
	第13条		回収済フロン類の第21条規定の業者への引き渡し義務	
解体業	第60条、第61条、第62条	リ サイクル事業部	解体業の県知事申請と許可	5年毎の更新
	第63条		申請事項の変更届	30日以内
	第64条		廃業等の届出	30日以内
	第65条		主務省令で定める事項を記載した標識の掲示	
■フロン排出抑制法	第86条	全事業所	フロン類の放出禁止	
	第86条	全事業所	業務用冷凍空調機器の簡易点検実施	年4回以上実施
■道路運送車両法				
永久抹消登録	第15条	リ サイクル事業部	永久抹消登録の申請	15日以内
一時抹消登録の申請	第16条		一時抹消登録申請	15日以内
記録等の保存	第21条		永久・一時抹消登録申請書控えの保管	5年間
■下水道法				
排水設備等の設置	第10条		公共下水道設置地区の下水への接続義務	
下水道使用の届出	第11条の2	本社、YH郡山南・白河	下水道使用開始時期を公共下水道管理者への届出義務	
下水排出基準の遵守	第12条の2	本社、YH郡山南・白河	下水排出基準の遵守(分離槽の定期チェック)	
■浄化槽法				
新設水質検査	第7条	郡山西・本宮・船引・県南	新設浄化槽は使用開始3ヶ月を経過した日から5ヶ月間に指定検査機関の水質検査を受ける	
保守点検・清掃	第10条の1	郡山西・本宮・船引・県南	年3回以上、浄化槽の保守点検及び清掃を行い、その記録を3年間保存する	年3回、3年保存
定期検査	第11条	郡山西・本宮・船引・県南	年1回、指定検査機関による水質に関する定期検査を受ける	年1回
廃止の届出	第11条の2	郡山西・本宮・船引・県南・YH郡山南	浄化槽の使用を廃止したときは30日以内に知事に届出	30日
■水質汚濁防止法	第14条の2	リ サイクル事業部	排水基準を超える緊急時の応急措置及び届出	速やかに
■消防法				
消防計画作成・提出	第8条	本社・営業所、 リサイクル事業部、YH店舗	防火管理責任者の設置及び消防計画の作成提出	
危険物保管に関する届け出	第9条の3	本社・営業所、 リサイクル事業部、YH店舗	政令数量以上のエンジンオイル他石油類の保管時の届出	
郡山市火災予防条例	第38条、第38条の2	本社・営業所、 リサイクル事業部、YH店舗	指定数量の1/5以上の危険物を貯蔵する場合は、消防署長に届出が必要(エンジンオイル 1200ℓ以上)	

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。更に、自社で遵守状況をチェックしたところ問題はなかった。また、地域社会等からの苦情等による指摘もなかった。

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。更に、自社で遵守状況をチェックしたところ、問題はなかった。又、地域社会等からの苦情等による指摘もなかった。

◆◆ 代表者による全体評価と見直し ◆◆

弊社におけるE A 2 1の活動は19年目を迎え、2015年12月には一般財団法人持続性推進機構様より表彰という評価を賜りました。電気、燃料、水、ゴミの削減活動からスタートの環境活動でしたが、「減らす活動から増やす活動」への転換を目指し、従来の中古・リサイクル商品の販売拡大に加え、2015年からは業務営業内容に深く関わる、省燃費オイル、低燃費タイヤの取扱拡大を環境目標に加え活動しております。2023年環境目標の達成状況は、二酸化炭素の排出において全部門目標に対して103.4%と達成しました。主な活動としては、卸・リサイクル部門においては燃料が、店舗においては電気が二酸化炭素排出の75~90%超の要因になっており、テレマティクス運用によるエコドライブの推進、照明設備を含めた店舗の電気使用に関する運用改善の必要性を確認しております。イエローハット部門において30分デマンドを意識した日々の電気設備の立ち上げ管理を徹底することで電気料金削減の効果が現れておることを活動の励みとしてその活動を全社に広げて参ります。

2007年より実施して恒例となっている、夏場の家庭における消費電力削減活動ですが、2022年は全社員104名を対象に行いましたが80%を超える参加目標で取り組んだ結果、前年より14名少ない最終参加者49名となり、参加率は前年の58%から47%への低下となっております。電力自由化による検針データー取得の複雑化など従来の紙による検針票が全くない中で、それぞれの電力会社の検針データー抽出方法を事前に調べておく必要がある事と各家庭の個人情報提出への抵抗感を持つ人が増えた。これにより、2023年は夏場の家庭における消費電力削減活動を一旦休止する。

廃棄物、水の排出においては総量が大きくなく、環境への負荷は大きくないと捉えているが、2023年においてはCO2排出・水使用量共に達成という状況になっておりますが廃棄物に於いては、大幅未達の結果でした。

増やす活動の省燃費オイル、低燃費タイヤ、リサイクル・リビルト部品は、比率目標は未達であるが、その取扱量は順調に拡大しており、引き続き目標達成に向けた活動の推進を図ります。

これらの活動を推進するに当たって2011年6月より活動して参りました環境委員会についての活動は、月1回の実績検討会の中で日々の活動を確認することの繰り返しと機能していると捉えています。部門選出の委員は人事異動等で構成が変わり戸惑いもあるかと思いますが、多くの人が関わる環境にもなりE A 2 1への理解を深める結果と捉えています。

今後の弊社の環境活動は従来活動の質の向上を目指すと共に社員を巻き込んだ活動へより裾野を広げた活動を目指して参ります。テレマティクスは成果を認められることから今後も拡大を図りますが、自社だけに止まることなく、関係各社への拡大も目指して行きます。設備更新に当たってはより環境負荷軽減品を優先して社員活動の支援環境を整えます。

エコアクション21組織及び役割分担表

令和6年4月1日現在

